

本庄小学校区
防災福祉コミュニティ
地域おたすけガイド

(地区防災計画書)

2023年5月改訂

本庄小学校区防災福祉コミュニティ

地域おたすけガイドとは？

区役所や消防署などの行政機関が一時的に機能不全に陥る規模の大災害が起こった際には、住民同士の助け合いが必要となります。

このガイドは、主に発生が危惧される南海トラフ巨大地震への対処を念頭に、地域の自主防災組織である「本庄小学校区防災福祉コミュニティ」の役割と平常時の活動および南海トラフ巨大地震発生時の活動をまとめたものです。

本庄小学校区はこんなところ

この地区は、大部分が阪神電鉄沿線の南側に位置する沿岸部で、地区の真ん中を国道43号線が横切っています。標高は1.5~2.5m程度です。

約7千の世帯に1万5千人ほどの人が住んでいて、住民の約8割が3階建て以上の集合住宅に住んでいます。

生まれてからずっと同じ家に住み続けている人は1割弱ですが、4割強の人が10年以上同じ家に住み続けています。65歳以上の高齢化率が年々上昇しています。

地区の災害危険

●南海トラフ巨大地震

本庄小学校区では**震度6弱**の大きくゆっくりとした**揺れ**が**1~2分**続き、その後、沿岸部に**110分**程で高さ**3.3m**の**津波**が到達すると予想されています。現在、防潮堤は神戸市によって1000年に1度クラスの地震・津波でも決壊しない補強と地盤沈下でも必要な高さを保持する「かさ上げ」がなされており、防潮鉄扉や水門は遠隔操作で閉鎖する等の対策がとられていますが、万が一、地震で防潮堤が破壊された場合、校区一帯が浸水深1m程度の津波に襲われる危険があります。

●直下型地震

歴史的に南海トラフ巨大地震が発生する30年ほど前から、西日本の内陸部で直下型地震が多発し出すと言われており、阪神淡路大震災がその最初であったと言われています。南海トラフ巨大地震が発生した後も10年程は、余震としてかなり大きな直下型地震が発生する危険があります。

●その他の自然災害

沿岸部で標高が低く、**水の被害を受けやすい**地区です。**高潮**や**高波**が防潮堤を超えることもあります。また、本庄中央公園・阪神深江駅・阪神青木駅のいずれも南側一帯は、排水能力を超える**豪雨**で側溝等から水が溢れ出し浸水する恐れがあります。想定し得る最大規模の降雨があった場合、芦屋川の氾濫により深江南地域の大部分が浸水する可能性があります。

南海トラフ巨大地震について

南海トラフ巨大地震は 90～150 年周期で発生する海溝型の地震です。陸側のユーラシアプレートが海側のフィリピン海プレートの引きずり込みに耐えられなくなった時、限界に達して跳ね上がり**地震**が発生するとともに、その上部にある海水が盛り上がり巨大な**津波**となります。津波は第1波が最大とは限らず、50～60分間隔で何度も来襲し、少なくとも5～6時間は異常な潮位変動がみられます。この地震による揺れと津波により、関東から九州までの非常に広い範囲に、甚大な被害が発生することが予想されています。

前回の南海トラフ地震は 1944 年の昭和東南海地震と 1946 年の昭和南海地震という二つの地震として発生しました。前回は本来起こるはずの東海地方で発生せず、そのエリアのプレートの引きずり込みは解消されず地震のエネルギーは温存されてしまいました。そのため次回は本来の周期よりも早く、しかも三つの地震としてではなく一つの巨大な地震として発生することが危惧されています。



海溝型地震と津波の仕組み



南海トラフ巨大地震の歴史

津波に関する知っておくべき知識

- 津波は巨大な水の塊の高速移動で、高潮や高波とは桁違いの**破壊力**があります。
- 津波が来る前に一旦水面が下がる「**引き波**」は、いつも起こるとは限りません。
- 人は津波の浸水深が **30 cm**で立ってられず、**50 cm**になると車が流されます。
1mの浸水深に巻き込まれた人は、ほぼ **100%死亡**します。
- 木造住宅は1mの浸水深で破壊され始め、2mで押し流されます。
- 地震により発生した火災は津波で消えるとは限らず、押し流されながら燃え広がる**津波火災**を引き起こす危険があります。

平常時における防災福祉コミュニティ活動

地域防災は次の世代に「たすき」をつなぐリレーのようなものです。防災福祉コミュニティとして南海トラフ巨大地震がいつ起きても、その時に本庄小学校区で暮らしている人たちが助け合えるように平常時には以下の活動をおこないます。

1. 災害対応訓練の実施（技術の継承）

大災害時の助け合いに必要な具体的な技術を継承するために、年に一度の総合防災訓練、適宜、各地区または訓練種目毎のブロック訓練を企画し実施します。

津波避難訓練、要援護者支援訓練
運営本部運営訓練、避難所運営訓練
運営本部開設訓練、避難所開設訓練、
消火訓練、救助訓練、救護訓練、搬送訓練

2. 防災資機材の維持管理と拡充（資機材の継承）

災害対応に必要な資機材を、それらを収納している倉庫の鍵を含め、訓練等で定期的に使用確認し、いつでも使える状態に維持管理します。また、災害時の活動に必要なと思われる資機材は、助成金等を活用して新たに購入し充実させていきます。

3. 持続可能な組織と仲間づくり（組織の継承）

防災福祉コミュニティは地域防災の拠り所です。現在活動している私たちがいなくなった後も活動が継続されるよう常に新しい人材を探し、受け入れる開かれた組織であり続けます。さらに地域では、活動には参加していなくても、災害時に声をかければ助け合いに協力してくれる顔の見える関係づくりを進めます。

4. 認識の共有（共通認識の継承）

津波時の阪神電車より北側への避難行動や津波の心配が無くなった後の運営本部および避難所の移動、災害時の助け合いの必要性など、本庄小学校区で暮らす全ての住民が知っておくべき事柄について、継続した周知活動をおこないます。

南海トラフ巨大地震発生時における活動

南海トラフ巨大地震発生直後は、区役所や消防署などの行政機関が機能不全に陥り、避難所の開設は滞り、消防車や救急車も駆け付けられないことが考えられます。そのような状況下で私たちは、自ら判断して自らの行動を決しなければならないこととなります。

住民同士の助け合いをより組織的、効果的におこなうことを目的として、地震発生から概ね行政機関の機能が回復するまでの防災福祉コミュニティとしての活動内容をまとめます。

津波避難の考え方

校区の大部分が**津波浸水想定域**であることを念頭に、防潮堤などの対策が機能しなかった場合でも誰一人として命を落とさないことを第一に考えて活動します。

そのため校区内にいる**全ての人**に対して、基本的に建物の上階に避難する「**垂直避難**」ではなく、一旦は**阪神電車の北側**に歩いて避難し、津波の心配が無くなるまで戻らない「**水平避難**」をするよう呼びかけます。

※垂直避難のリスク

南海トラフ巨大地震では発生から60分経過すると、消防職員も消防団員も津波の心配が無くなるまで津波浸水想定域から退避することから、津波浸水想定域内での垂直避難は消防車や救急車を要請しても出動されないというリスクがあることを、平常時の活動においてコミュニティの方々に伝えていきます。

活動方針

- 自らの安全を最優先し危険を感じたときは、すぐに避難します。
- 自分たちのできる範囲で活動します。
- 近くにいる住民に声をかけ、助け合い活動への協力を求めます。
- 単独活動はせず、複数（3～4人以上）で活動します。

運営本部設置基準

- 震度6弱以上、もしくは兵庫県南部沿岸部に津波警報が発表され、地震による災害が発生し、または災害が拡大する恐れがある場合。
- 神戸市に特別警報または高潮警報が発表された場合。

隣接防災福祉コミュニティとの連携活動

南海トラフ巨大地震では、津波浸水想定域に位置する**本庄小学校・本庄中学校**は緊急避難場所にならず、防災福祉コミュニティ運営本部の設置もできません。

本庄小学校区で暮らす私たちは、各自が校区の北側にある**東灘小学校、本山南小学校、福池小学校**を目指して避難します。そのため**運営本部**および**避難所**は、東灘小学校、本山南小学校、福池小学校それぞれの**防災福祉コミュニティ**と**協同**して運営をおこないます。

臨時運営本部設置場所（役員参集場所）・緊急避難場所

小学校（所在地）	協同する防災福祉コミュニティ
東灘小学校（深江北町2丁目4-1）	東灘小学校区防災福祉コミュニティ
本山南小学校（本山南町8丁目2-1）	本山南小学校区防災福祉コミュニティ
福池小学校（本山南町4丁目4-28）	福池小学校区防災福祉コミュニティ

- 他の臨時運営本部とのやりとりは **LINE オープンチャット**でおこなう。
- 避難所は「**神戸市避難所開設・運営マニュアル**」に則り運営する。

※ **緊急避難場所**・・・一時的な避難場所 **避難所**・・・避難生活を送る場所

運営本部・避難所の移動

校区内が津波に襲われることなく津波警報が解除され、本庄小学校の安全が確保されれば**東灘区役所**と協議のうえ各臨時運営本部を閉鎖し、あらためて**本庄小学校**に**運営本部**および**避難所**を開設します。

各小学校の避難所に避難している**本庄小学校区在住者**で希望する方々は、本庄小学校に開設する避難所に移動します。

運営本部・避難所移設場所

小学校（所在地）
本庄小学校（青木4丁目4-1）

活動拠点等まとめ

運営本部 設置場所	南海トラフ巨大地震発生時	
	東灘小学校（深江北町2丁目4-1）	東灘小防コミと協同運営
	本山南小学校（本山南町8丁目2-1）	本山南防コミと協同運営
	福池小学校（本山南町4丁目4-28）	福池防コミと協同運営
	津波の危険が無くなった後	
	本庄小学校（青木4丁目4-1）	
ブロック本部 設置場所	運営本部を本庄小学校へ移動後に適宜開設	
	深江南地域福祉センター（深江南町3丁目4-24）	
	青木文化センター（青木5丁目1-16）	
	本庄中学校（青木4丁目4-2）	
防災資機材庫 配置場所 <small>鍵の所在 公園→防コミ会長 小学校→職員室</small>	見附公園 （深江南町3丁目6）	本庄中央公園 （青木5丁目18）
	本庄小学校（鍵は番号式） （青木4丁目4）	内浜公園 （青木3丁目5）
耐震性防火水槽 小型動力ポンプ備付 <small>鍵の所在 消防団が保有 （全て共通の鍵）</small>	見附公園 （深江南町3丁目6）	本庄中央公園 （青木5丁目18）
	市営青木南第2住宅 （青木4丁目2）	内浜公園（防火水槽のみ） （青木3丁目5）

※校区内の屋内避難所関係

緊急避難場所…一時的な避難場所 避難所…避難生活を送る場所	災害別適用			避難所 利用
	土砂	洪水	津波	
本庄小学校（青木4丁目4）	○	○	×	○
本庄中学校（青木4丁目4）	○	○	×	○
東灘高校（深江浜町50）	○	○	×	○
神大海科部（深江南町5丁目）	○	○	×	○

南海トラフ巨大地震発生時活動要領

地震発生から自宅を出るまで

- テーブルなどの下に潜りテーブルの脚をしっかり握る。落ちてくる物や倒れる物が周りになれば身をかがめてじっとしている。
- 揺れがおさまったら**割れたガラスに注意**して、すぐにスリッパや靴を履く。
- 火は無理に止めず揺れがおさまってから止める。出火したら小さなうちに**家庭用消火器**等で確実に**消火**する。油火災・電気火災には絶対に水をかけない。
- 家族の安全を確認する。一人で助け出せなければ近所の人に助けを求める。
- スマホ・ラジオ・テレビ等から情報を入手する。情報を入手できなくても大きな揺れが**1分以上**続いたら**南海トラフ地震**と判断する。
- 津波到達予想時刻までの時間管理をおこなう（スマホで**タイマー設定**する等）。
- 家を出る際、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、しっかり施錠し、玄関に「**無事です**」のみ張り紙する。
- **非常持ち出し袋**で自分が使う身の回り品や非常食を持って出る。

各小学校（臨時運営本部開設場所）に到着するまで

- 同居の家族も一緒に家を出る。
- 防災資機材庫の**鍵**保有者は、最寄りの防災倉庫を**開錠、開扉**して北上する。
- 津波到達予想時刻（**発生から110分**）に余裕をもって各自で**阪神電車より北側**に到着し、**福池小学校、本山南小学校、東灘小学校**のいずれかに向かう。
- 近所に「**要援護者**」がいることが明らかな場合、複数で協力して共に避難する。
- 避難の呼びかけは**拡声器**等でおこない、戸別訪問での呼びかけはおこなわない。垂直避難する住民への**説得**はせず、**3階以上**に留まり続けるよう伝える。

防潮堤・防潮鉄扉・深江橋^{りっこう}陸閘(角落し)

- **防潮堤**および**防潮鉄扉**の破損状況はわざわざ見に行かず、近くから避難してきた者から情報を入手し、その情報を**LINE オープンチャット**で共有する。
- 防潮鉄扉は地震発生から**30分後**に**自動閉鎖**するので、閉鎖障害になりそうな物（自転車や石）があれば取り除ける範囲で取り除く。
- 防潮堤の**壊滅的な破壊**もしくは防潮鉄扉の**閉鎖不能**を確認した場合は、区域外への**避難呼びかけ**および自らの避難を最優先する。
- 高橋川深江橋^{りっこう}**陸閘(角落し)**の閉鎖作業は東部建設事務所職員もしくは委託業者がやって来ておこなうが、近隣の住民がおこなってもかまわない。

津波浸水想定域内（阪神電車より南側）での活動

各自が水平避難している途中で**火災**や**ケガ人**や**閉じ込め**等を発見し、それらの事案にそのまま対処する状況が起こり得ます。そのような場合でも絶対に無理をせず、自分たちができる範囲の活動をおこないます。

津波浸水想定域内での活動ルール

共通事項

- **119番**通報し必ず近くにいる人に協力を求め**複数人**で活動する。
- 活動時間は地震発生から**60分以内**とし、**タイムキーパー**を配置して60分経過すれば全ての活動を取り止めて域外へ避難する。
- 念のため近くの頑丈な建物上階に**退避場所**の目途をつけておき、いつでも駆け込めるよう警戒しながら活動する。

消火活動

- 近くにある**消火器数本**で消火できそうな場合のみ試みる。隣の建物に燃え移らない立地の場合や、すでに窓から炎が噴き出しているような場合は対処しない。

救護活動

- 上半身のケガ等、ケガ人が自力で移動できる場合は、津波浸水想定域外（阪神電車の北側）まで移動してから**応急処置**をおこなう。
- ケガ人が歩行困難な場合は、その場で**最小限の応急処置（固定・止血）**をおこない、毛布等で**簡易担架**を作成し津波浸水想定域外（阪神電車の北側）まで移動させた後、あらためて応急処置をおこなう。

救助活動

- 閉じ込めが建物2階以上であれば対処せず、そのまま留まるよう伝える。**建物1階**の場合のみ、最寄りの資機材庫から機材を持ち出し**短時間**での救出を試みる。

各小学校（臨時運営本部開設場所）到着後

- 各小学校の防災福祉コミュニティがスペースを確保しているので**臨時運営本部**を開設し、その旨を**LINE オープンチャット**で情報共有する。
- 臨時運営本部の運営は避難先の防災福祉コミュニティと**連携**しておこなう。
- 避難所は避難先の防災福祉コミュニティが開設しているので協同して「**神戸市 避難所開設・運営マニュアル**」に則り運営をおこなう。
- 本庄小学校校舎の安全が確認できれば、**東灘区役所**と協議のうえ、適宜、運営本部を**本庄小学校**へ移設し、順次区域内での活動を開始する。

深江浜町（第4工区）

深江浜町は 1969 年に埋め立てられた約 120 ヘクタールの人工島であり、約 400 世帯 600 人が暮らし、300 余りの事業所で 8000 人程が働いています。

島外へ避難するための経路が**深江大橋のみ**であることから、島内企業・東灘高校・島内居住者等で作る「深江を善くする会」が以下のような独自の対策を図っています。

- 東灘高校は平常時から生徒を**ドローンパイロット**として養成する。
- 東灘高校は南海トラフ巨大地震が発生すれば国土交通省に連絡して災害時の飛行許可を得て**ドローン**を飛行させる。
- 東灘高校は生徒が運動場や体育館に集合している間にドローンにより、深江大橋の通行可否、橋の北側 袂 付近^{たもと}の状況、島内の浸水・冠水箇所を確認する。
- 東灘高校はドローンから得られた情報を**ツイッター**で島内関係者に共有する。
- 島内関係者は深江大橋の通行可能および橋までの安全な経路が確認できれば、速やかに**徒歩による島外への水平避難**を開始する。
- 深江大橋が通行不能であった場合や、地盤の液状化や車両・避難者等の混雑により**阪神沿線北側まで**時間的な余裕を持ってたどり着けないと判断した場合は、無理をせず島内に留まり、**頑丈な建物の上階に避難**する。

状況判断 & 活動指示

□ 運営本部

- 福池小学校、東灘小学校、本山南小学校に到着した役員が各防コミと協同して臨時運営本部を運営する。
- 各防コミが準備した机の上に、地図、ハザードマップ、記録用紙、筆記具、付箋等をセッティングする。
- 統括リーダーと各役割を決める。
- 集めた情報を整理して状況を把握する。
緊急の内容は 119・110 へ通報する。

東灘区役所：841-4131
 東灘消防署：843-0119
 東灘警察署：854-0110
 ※電話は通じない可能性大

統括リーダー	隣接防コミとの連携、区役所・消防署との情報共有や交渉、各ブロック本部との調整を行なう。
情報班	入手した情報を付箋に書き、地図に貼っていく。見回り班や他団体、ラジオ等から情報を入手する。
記録班	被害状況や助けが必要な人の情報を時系列と事案別に書いていき、整理して把握する。
避難所運営班	避難者から協力者を募り編成。環境整備、清掃、物資の受け入れ・配布、介護補助などをおこなう。

□ ブロック本部（南海トラフ巨大地震では即時設置しない）

- 本庄小学校に運営本部がある際に必要に応じて開設する。

ブロック長	運営本部と連絡を取り合い、集まった協力者と資機材を振り分け、具体的な活動内容を指示する。
活動班	防災資機材庫等の資機材を用いて、救出、応急手当等の活動をおこなう。
見回り班	地区内を見回り被害の情報を本部に伝える。併せて二次被害の警戒と要援護者の支援をおこなう。

消火活動

- 多くの人に協力を求めて消火活動をおこなう。
- 燃えている建物内には進入せず、**屋外から放水**する。
- 火を**周りに拡げない**ことを優先し、隣の建物にも水をかける。
- 火にあおられないよう、**風下に入らない**。
- 退路（逃げ道）**を確保しておく。
- 人命危険、延焼危険共に無ければ無理せず、**飛び火のみ**処理する。

発生場所

状 況

手書き地図

消 火 手 段

選択 順位	名 称		備 考
	消 火 器		各建物に設置されているものを使用する。火災のごく初期のみ有効。
	スタンドパイプ		地中の水道管に消火栓から直結させて放水する。断水した地区では使えない。
	小型動力ポンプ		耐震性防火水槽がある場所に、ホース・ノズルと共に収納されている。
	バケツリレー		バケツをかき集めて大勢で実施する。水源は小学校プール。
	屋内消火栓		建物に設置されている場合がある。停電すると使えない可能性が高い。

※使い方が分からない手段はやらない

救出活動

- 多くの人に協力を求めて閉じ込められた人を救出する。
- 必ず**軍手**と**ヘルメット**を装着する。
- 倒壊した建物の中には**潜り込まない**。
- 持ち上げた物の下に「手」を入れず、「**あて木**」を入れ倒壊を防ぐ。
- 足りない道具は皆で持ち寄る（ジャッキ、あて木の代用品等）。







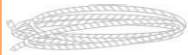
発生場所

状況

手書き地図

防災資機材庫

鍵(かぎ) 開錠済み 要持参

	バール		のこぎり	
	ジャッキ ※車に積載されている		ボルトクリッパー	
	つるはし		チェーンソー ※必ず保護衣を着装	
	おの		シャベル	
	ハンマー		ロープ	

※使い方が分からない道具は使わない

応急手当 & 搬送活動

- 多くの人に協力を求めて応急手当と搬送をおこなう。
- 素手で血液に触れない。ゴム手袋を装着するかビニール袋で手を包む。
- 必要な資機材を調達する（救急セット、AED、簡易担架等）。
- 正規の資機材が無ければ身の回りにある物を工夫して活用する。
- 重傷者は医療機関に搬送する。

発生場所

状況

手書き地図

応急手当

<input type="checkbox"/>	出血	傷口に清潔なガーゼをあて、手で圧迫して止まるまで押さえ続ける。	ガーゼ・三角巾・ゴム手袋 ハンカチ・ラップ・ビニール袋
<input type="checkbox"/>	骨折	折れた部位に副子(そえ木)をあて、三角巾などで固定する。	副子・三角巾 雑誌・段ボール・傘・ラップ
<input type="checkbox"/>	捻挫	可能であれば冷却した後、三角巾などで固定する。	三角巾・(氷) ラップ・テーピングテープ
<input type="checkbox"/>	やけど	可能であれば流水で衣服の上から冷やし、清潔なガーゼで保護する。	水道水(流水)・ガーゼ・(氷) ペットボトルの水・ハンカチ
<input type="checkbox"/>	心肺停止	胸骨圧迫(30回)と人工呼吸(2回)を繰り返し、AED到着すれば実施。	AED ※人工呼吸は無理してしない

搬送 搬送先

担架搬送	防災倉庫の担架を使って搬送する。	毛布搬送	4人以上で毛布の両端を丸めて持ち上げる。
イス搬送	イスに座らせ、複数でイスを持ち上げる。	徒手搬送	複数で体の下に手を差し入れ、水平に抱える。

警戒 & 要援護者支援

- 複数名で地区内を見回り、被害の情報を本部に伝える。
スマホやSNSがつながらなければ伝令を走らせる。
- 二次被害の警戒と要援護者等の支援をおこなう。

見回り区域

LINE オープンチャット

QRコードリーダーで読み込み、ルーム内に情報を書き込む。
自分のプロフィールは名前@見回り班とする。

手書き地図

警戒活動 ※ハンドマイク、スマホ、メモ帳等を携帯する

<input type="checkbox"/>	火 災	煙の立ち上り、煙臭さに注意して見回る。発見すれば本部に連絡するとともに119通報し、可能な限り初期消火を開始する。
<input type="checkbox"/>	ガス漏れ	ガス臭に注意して見回る。発見すれば本部に連絡するとともに119通報し、近づかないよう周りに呼びかける。
<input type="checkbox"/>	建物倒壊 通行障害	倒壊した建物や通行できない道路の情報を本部に伝える。 倒壊した建物内に閉じ込められた人がいないか呼びかける。
<input type="checkbox"/>	呼びかけ	ハンドマイクを使って危険個所への警戒、避難する際はガスの元栓を締め、電気ブレーカーを落とすよう呼びかける。
<input type="checkbox"/>		

要援護者等支援 ※災害時要援護者台帳、救急セット等を携帯する

<input type="checkbox"/>	安否確認	民生委員・児童委員等と協力して要援護者の安否を確認し、必要に応じて応急救護をおこなう。確認後、ドアに目印をつける。
<input type="checkbox"/>	介 助	避難困難者の手助け、付き添いをおこなう。搬送が必要な場合は本部に応援を要請する。

避難所運営

- 神戸市避難所開設・運営マニュアルに則り運営する。
 - 避難者はできる範囲で運営に参加する体制とする。
 - 避難所内の配置は早い者勝ちにせず、世帯単位に各事情を考慮する。
 - 避難所利用のルールに則り、公平公正な運営をおこなう。
 - 個人のプライバシーを尊重し、必要以上に介入しない。
 - 意思決定機関が高齢男性ばかりに偏らないよう多様性に配慮する。
- 1人1人が自らできることを担う

□	避難者の誘導	受付で配置が決まった避難者を、決められた場所まで案内する。トイレ等の共用スペースの説明をする。
□	環境整備	間仕切り・掲示板・毛布・暖房機器等の必要資機材を倉庫等から取り出しレイアウトする。
□	危険除去	落下物や割れた物などの危険物を除去する。立ち入り禁止箇所に張り紙の掲示やロープを張る。
□	環境美化	トイレや通路等の共用エリアの清掃やゴミの処理は、全員が持ち回りでおこなう。
□	物資の受け入れ	区役所等から届く食料・物資を避難所内に運び入れる。
□	物資の配布	非常食や飲料水等を世帯毎に小分けして配布する。必要に応じて炊き出しをおこなう。
□	広報・情報収集	必要な情報やルールを、掲示板やSNSを使ってお知らせするとともに、要望等を収集する。
□	介助・見守り・話し相手	配慮が必要な避難者への介護を補助するほか、話し相手になったり、見守りをおこなう。
□	防火・防犯	火気の使用について見回る。人目のない場所やトイレ等、必要に応じて交代制などによる警戒をおこなう。
□	その他	避難所生活の運営・維持に必要なこと。

災害時要援護者とは

障がいのある方、介護が必要な方、高齢者（ひとり暮らしの方、高齢者世帯など）、難病患者、乳幼児、妊産婦のほか、負傷して自力で避難することが難しい方など、災害が発生した際に安全な場所に避難したり、避難所での生活に困難が生じ、周りの人の助けを必要とする方を言います。

福祉避難所について

神戸市では、避難所での生活に何らかの特別な配慮を要する方のための二次的避難所として、地域福祉センターや特別養護老人ホームなどを「福祉避難所」に指定しています。入所対象者は、市の保健師が避難所で行う健康調査等をもとに、ご本人やご家族の意向や状況を踏まえ、市が決定します。要援護者から福祉避難所への直接避難の相談があった場合は、区災害対策本部へ連絡いただくよう、お願いします。

※福祉避難所は、災害時に常に開設される訳ではありませんので、まずは一般の避難所へ避難していただくことになります。

※地域福祉センターは、対応可能な人員や物資の確保が出来る場合、地域独自の判断で開設いただくことも可能ですが、区災害対策本部と十分ご協議ください。

避難情報 警戒レベルについて

警戒レベル		意味
5	<small>きんきゅうあんぜんかくほ</small> 緊急安全確保	すでに災害が発生したか切迫していて命が危険な状況。屋外への避難はできず屋内でできる限りの行動を取る。
—— 警戒レベル4までに必ず避難行動を終える ——		
4	<small>ひなんしじ</small> 避難指示	災害が発生する可能性が高いため、発令された地区の全員が避難行動を取る必要がある。
3	<small>こうれいしゃとうひなん</small> 高齢者等避難	災害が発生する可能性があるため、発令された地区で避難に時間がかかる人は避難行動を開始する。





避難の4行動 ～避難所に行くだけが避難ではない～

- 行政が指定した小学校などの避難所に行く避難
- 安全な親戚や知人宅に行く避難
- 安全なホテル・旅館に宿泊する避難
- 安全な場所に立地し、被害の恐れがない場合の在宅避難

LINE オープンチャット

本庄小学校区 防災福祉コミュニティ

大勢の人がトークルーム内で同時に情報共有できます。友だち登録不要で自分のプロフィール（名前）を自由に設定できます。大災害発生時に住民同士で助け合うためのツールとして、専用のオープンチャットルームを開設します。

- **登録方法** ※LINE 未使用の方は、事前にアプリのインストールが必要です。
 1. LINE を起動し画面左下の  ホームを押します。
 2. 画面右上の  を押します。
 3. 上部真ん中の  QR コードを押すとカメラが起動するので、下の QR コードが画面の真ん中にくるようにして読み込みます。
 4. ルーム画面が出てきたら、下部にある[参加]と書かれたボタンを押します。
 5. プロフィール画面が出てきたら、「ニックネームを入力」と出ている欄に「**名字・お住まいの町名**」のように入力します。
 6. エンターキー  を押し、ルーム画面が出てきたら完了です。

● 災害時の活用方法

地区内でご自身の目で以下のような状況を確認した場合、その内容をルームに簡潔・正確に書き込むとともに、119 通報してください。

- ・ 隣の家が倒壊している、煙が上がっている、などの**災害情報**
 - ・ 大ケガをした人がいる、閉じ込められた人がいる、などの**人の情報**
 - ・ 道が塞がれている、電線が切れている、などの**危険情報**
 - ・ その他、トイレが使える、水が出る、資機材の在処、などの**役立つ情報**
- 大切な情報を埋没させないために、単なる「了解」などは不要です。

● 注意事項

- ・ 通信障害で繋がらない場合は**運営本部**に走って知らせてください。
- ・ SNS の情報が**人の生死**に直接関わります。**虚偽の情報**や**曖昧な情報**は絶対に流してはいけません。
- ・ 本庄小学校区在住者以外の方をルームに招待することや、上記の QR コードや参加コードを教えることはしないでください。